科 目 名	人間の尊厳と自立	講　師　名	東　吉枝
授業形態	講義	履修時間数	３０時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	人間としての尊厳の保持と、自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できる基礎能力を養うと同時に、演習を通して考える力、発表力を養う。		
回 数	授　　業　　内　　容		
１・2	人間の尊厳と利用者主体：シラバス説明・序論（演習）		
3・4	〃　　：人間の理解（演習）		
5・6	人権思想の潮流とその具現化		
7・8	人権や尊厳に関する日本の諸規定		
9・10	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷		
11・12	〃　　（戦後）		
13・14	人権尊重と権利擁護		
15・16	〃　　（介護保険制度等）		
17・18	〃　　（権利侵害）		
19・20	自立の概念の多様性		
21・22	介護を必要とする人々の自立と自立支援		
23・24	〃　　事例検討・発表		
25・26	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性		
27・28	まとめ		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第１巻「人間の理解」（中央法規出版）			
参考書：プリント配布、参考文献の紹介			
視聴覚教材：パワーポイント			
成績評価方法：筆記試験・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと： 人権思想の流れや意義を理解し、介護職に求められる倫理観を身につけてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護支援専門員、介護福祉士、介護教員講習会修了、幼稚園教諭一級免許状、保育士資格			

科 目 名	人間関係とコミュニケーション	講　師　名	畠山宏士・水上琴美
授業形態	講義・演習	履修時間数	３０時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科　１学年
授業の目的	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養う。		
回　数	授　　業　　内　　容		
１・2	人類の進化・自分を形成する要素		
3・4	他者を理解する・自己開示		
5・6	対人認知と人間関係 ボランティア実習にむけて		
7・8	関係づくりのための人間の理解（ボランティア実習）		
9・10	関係づくりのための人間の理解（ボランティア実習を振返って）		
11・12	集団の中の人間関係		
13・14	人間関係とストレス		
15・16	前期振返り		
17・18	コミュニケーションの基本構造・言語的コミュニケーション		
19・20	非言語的コミュニケーション		
21・22	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション		
23・24	対人援助における基本的態度		
25・26	組織の条件とコミュニケーションの特徴		
27・28	組織において求められるコミュニケーション		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第１巻「人間の理解」（中央法規出版）			
参考書：資料などはその都度配布する			
視聴覚教材：ビデオ・ＤＶＤ・パワーポイントなど			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・ファイル管理・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：基本的なコミュニケーション技術が身に付くよう積極的に取り組むこと			
担当教員の資格・経歴等：畠山：看護師、　水上：介護福祉士			

科 目 名	人間関係とコミュニケーション	講　師　名	渡部　美奈子
授業形態	講義・演習	履修時間数	３０時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科　２学年
授業の目的	介護実践において、チームで働く力を養うためのチームマネジメントの基礎的知識を身につける。		
回　数	授　　業　　内　　容		
１・2	ヒューマンサービスとしての介護サービス		
3・4	介護現場で求められるチームマネジメント		
5・6	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み		
7・8	ボランティア計画の立案（ボランティアチームを作り運営）		
9・10	ボランティアの実施		
11・12	ボランティア実施後の振返り		
13・14	ケアを展開するためのチームマネジメント		
15・16	前期振り返り		
17・18	介護福祉職のキャリアと求められる実践力		
19・20	キャリアパスとキャリアデザイン		
21・22	介護のＰＲ活動にむけて		
23・24	介護のＰＲ活動		
25・26	ＰＲ活動後の報告書作成・発表		
27・28	介護サービスを支える組織の機能と役割		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第１巻「人間の理解」（中央法規出版）			
参考書：資料などはその都度配布する			
視聴覚教材：ビデオ・ＤＶＤ・パワーポイントなど			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・ファイル管理・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：基本的なコミュニケーション技術が身に付くよう積極的に取り組むこと			
担当教員の資格・経歴等：看護師資格			

科 目 名	社会の理解Ⅰ	講　師　名	宮谷　和良
授業形態	講義・演習	履修時間数	３０時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	時代とともに変容を遂げてきた「日本型福祉社会」を概観し、家族や地域、制度と個人の生活がどのように関っているのかについて理解を深める。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	生活を幅広くとらえる		
3・4	生活の基本機能		
5・6	ライフスタイルの変化		
7・8	家族・社会・組織の機能と役割		
9・10	地域社会における生活支援		
11・12	演習		
13・14	地域福祉の発展		
15・16	地域共生社会、地域包括ケア		
17・18	社会保障の基本的な考え方		
19・20	日本の社会保障制度の発達		
21・22	日本の社会保障制度のしくみ①		
23・24	日本の社会保障制度のしくみ②		
25・26	現代社会と社会保障制度		
27・28	演習		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座 2「社会の理解」（中央法規出版）			
参考書：適宜プリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：			
成績評価方法：筆記試験、小テスト、受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：皆さんが目指すところの「福祉専門職」に求められる基本的な社会理解および人間理解が深まることを希望する。福祉の思想や歴史にも関心を持ってほしい。			
担当教員の資格・経歴等：社会福祉士、臨床倫理認定士、人間学修士			

科 目 名	社会の理解Ⅱ (社会保障制度)	講 師 名	斎田　和樹
授業形態	講義・演習	履修時間数	３０時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　１学年
授業の目的	高齢者保健福祉に関連する諸制度について概要を理解する。障害者保健福祉と障害者の自立とそれを支える諸制度や諸施策について基礎的知識を習得する。また、福祉・権利擁護に関する諸制度の概要を理解する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	高齢者保健福祉の動向		
3・4	高齢者保健福祉に関連する法体系		
5・6	個人の権利を守る制度・施策		
7・8	保健医療に関する制度・施策		
9・10	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策		
11・12	地域生活を支援する制度・施策		
13・14	社会の理解		
15・16	まとめ		
17・18	障害と障害者の概念・自立について		
19・20	障害者福祉施策の動向		
21・22	概要とサービス利用の流れ		
23・24	サービスの種類と内容		
25・26	障害者自立支援制度に関わる組織とその役割		
27・28	ライフサイクルからみた障害者自立支援		
29・30	総括		

使用テキスト： 最新・介護福祉士養成講座第２巻「社会と制度の理解」（中央法規出版）

参考書： 各種リーフレット

視聴覚教材： PPT、DVD 等

成績評価方法： 出席状況、筆記試験、受講態度等による総合評価

学生に望むこと：事前学習をして授業に臨み、事後学習により知識の定着を期待します。対象者を支援する上でも欠かせない分野であると同時に、私たちの生活にも密接している分野です。皆で理解を深めていきましょう。

担当教員の資格・経歴等：社会福祉士

科 目 名	社会の理解Ⅱ (社会保障制度)	講 師 名	関本　嵩詞
授業形態	講義・演習	履修時間数	１６時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　２学年
授業の目的	介護福祉士が理解しておかねばならない社会保障制度の中の高齢者領域における施策である介護保険制度、また関連法を学習する。		
回 数	授　業　内　容		
1・2	介護保険制度創設の背景と目的		
3・4	介護保険制度の概要とその仕組み①		
5・6	介護保険制度の概要とその仕組み②		
7・8	介護保険制度における組織、団体の役割		
9・10	介護保険制度における介護支援専門員の役割		
11・12	介護保険制度の動向		
13・14	ワークショップ		
15・16	総括		
17・18			
19・20			
21・22			
23・24			
25・26			
27・28			
29・30			
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座 第2巻「社会と制度の理解」（中央法規出版）			
参考書：適宜プリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：ビデオ			
成績評価方法：筆記テスト、学習内容を踏まえたプレゼンテーション、受講姿勢等による総合評価			
学生に望むこと：①介護福祉士は専門職（プロフェッショナル）であることを意識して、関与できる力を身に付けて欲しい。②社会システムにどのように主体的に貢献できるかを考える力を身に付けて欲しい。③疾病を持ちながらでも、どのようにすれば生活のサポートができるかの思考を膨らませる力を身に付けて欲しい。			
担当教員の資格・経歴等：社会福祉士			

科 目 名	人 間 と 法	講　師　名	宮谷　和良
授業形態	講義	履修時間数	２０時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	法的知識の学習を通し、法律が我々の日常にどのような役割を果たしているかを皆で考察する。身近な出来事に即して理解を深めていきたい。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	法とは何か		
3・4	人権の理念と歴史		
5・6	憲法 ①　制定の経緯と三大原則、幸福追求権		
7・8	憲法 ②　基本的人権　自由権		
9・10	憲法 ③　基本的人権　社会権		
11・12	民法 ①　債権、物権		
13・14	民法 ②　家族法		
15・16	社会保障法		
17・18	権利擁護と成年後見制度		
19・20	総括		

使用テキスト：「社会福祉を志す人のための法学」（第２版）宇山勝儀・森長秀 編著（光生館）

参考書：「よくわかる社会福祉と法」西村健一郎・品田光儀 編著（ミネルヴァ書房）

視聴覚教材：

成績評価方法：筆記試験、小テスト、受講態度等による総合評価

学生に望むこと：法学の基礎知識を身につけることで、法律がより身近なものと感じていただけることを期待する。また、政治的・社会的諸問題にも関心を持ってほしい。

担当教員の資格・経歴等：社会福祉士、臨床倫理認定士、人間学修士

科 目 名	情 報 処 理	講　師　名	川並　正
授業形態	講義・演習	履修時間数	３０時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	情報化社会の進展に対応した社会生活に必要とされるパソコンを、正しくかつ有効に活用する上で、情報倫理・ＩＴリテラシー等を身につけ、情報処理技術の習得と、それを使った表現能力を育成する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	ガイダンス、実習環境説明、動作確認、Ｗｉｎｄｏｗｓ基本操作		
3・4	情報処理に関するマナー（メール・ＳＮＳ等）・セキュリティ等		
5・6	Ｗｉｎｄｏｗｓ操作		
7・8	Ｏｆｆｉｃｅ共通操作		
9・10	Ｗｏｒｄ／Ｅｘｃｅｌの基礎操作(1)		
11・12	Ｗｏｒｄ／Ｅｘｃｅｌの基礎操作(2)		
13・14	Ｗｏｒｄ／Ｅｘｃｅｌの基礎操作(3)		
15・16	介護現場での情報活用を考える[先輩とのディスカッション]		
17・18	介護現場での情報活用を考える[先輩とのディスカッション]		
19・20	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基礎操作(1)		
21・22	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基礎操作(2)		
23・24	課題の取り組み（アウトライン、スライド作成）		
25・26	課題の取り組み（ノート作成、リハーサル）		
27・28	作成スライドの発表会		
29・30	全体評価と今後の介護における情報処理活用方法		
使用テキスト：都度講義内にて説明			
参考書：特に使用せず。各自、講義用にメモを準備すること。			
視聴覚教材：パソコンルーム機器一式を利用			
成績評価方法：課題に対する取組状況、学習態度、出席状況より総合的に判断する。			
学生に望むこと：業務遂行上で使いこなせる様、スキルアップに努めてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：第２種情報処理技術者、システム開発９年、ＰＣサポート業７年			

科 目 名	総 合 学 習	講　師　名	専任教員
授業形態	講義・演習	履修時間数	２４時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	国家試験に向けて介護福祉士としての基礎知識をより確かなものにし、介護福祉士としての総合的な能力を高めることを目的とする。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	介護福祉士　全国統一模擬試験（第１回目：前期）		
3・4	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション・総合問題		
5・6	社会の理解・総合問題		
7・8	介護の基本・生活支援技術・総合問題		
9・10	コミュニケーション技術・総合問題		
11・12	介護過程・総合問題		
13・14	発達と老化の理解・総合問題		
15・16	認知症の理解・総合問題		
17・18	障害の理解・総合問題		
19・20	こころとからだのしくみ・医療的ケア・総合問題		
21・22	介護福祉士　全国統一模擬試験（第２回目：後期）		
23・24	学力評価試験（介養協）		

使用テキスト：介護福祉士国家試験　模擬問題集（中央法規出版）、各教科の教科書持参

参考書：国試ナビ

視聴覚教材：

成績評価方法：各試験科目のテスト・模擬問題による評価

学生に望むこと：国家試験受験に向けた学習として事前学習をして授業に臨み、苦手分野の克服に繋がるよう復習もしっかりして欲しい。

担当教員の資格・経歴等：

科 目 名	介護の基本Ⅰ	講　師　名	一島昌子・畠山宏士
授業形態	講義	履修時間数	６０時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	介護の変遷を知り、介護における「尊厳の保持」「自立支援」の考え方を理解し「介護を必要とする人」を生活の観点からとらえる。また、介護における安全やチームケア等について理解する。		

回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	介護の成り立ち	31・32	私たちの生活の理解
3・4	介護の概念の変遷	33・34	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解
5・6	介護福祉の基本理念	35・36	生活を支えるフォーマルサービス
7・8	介護福祉士の活動の場と役割	37・38	生活を支えるフォーマルサービス
9・10	社会福祉士及び介護福祉士法	39・40	介護における安全の確保
11・12	介護福祉士養成カリキュラムの変遷	41・42	リスクマネジメントとは何か
13・14	介護福祉士を支える団体	43・44	感染症対策
15・16	介護福祉士の倫理	45・46	多職種連携・協働の必要性
17・18	介護福祉士会の倫理綱領	47・48	保健・医療・福祉職の役割と機能
19・20	自立支援の考え方	49・50	多職種連携・協働の実際
21・22	ＩＣＦの考え方	51・52	健康管理の意義と目的
23・24	自立支援・ＩＣＦ（演習）	53・54	こころの健康管理
25・26	自立支援とリハビリテーション	55・56	身体の健康管理
27・28	自立支援と介護予防	57・58	労働環境の整備
29・30	総括	59・60	総括

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第3・4巻「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」（中央法規出版）

参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う

視聴覚教材：パワーポイント・ＤＶＤ

成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・学習態度等による総合評価

学生に望むこと：介護の基本的知識・概念を理解し、介護福祉士として必要な姿勢や態度、視点を身につけてほしい。

担当教員の資格・経歴等：
一島：保育士資格、幼稚園教諭二種免許状、介護福祉士、介護支援専門員、　畠山：看護師

科 目 名	介護の基本Ⅱ（総合）	講　師　名	専任教員
授業形態	講義・演習	履修時間数	１６時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	介護福祉士としての基礎知識をより確かなものにし、また芸術鑑賞などを取り入れることにより、介護福祉士としての基本的な能力や感性を高めることを目的とする。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	社会の理解		
3・4	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション		
5・6	コミュニケーション技術		
7・8	生活支援技術・介護の基本		
9・10	介護過程		
11・12	こころとからだのしくみ		
13・14	認知症の理解・障害の理解		
15・16	医療的ケア		

使用テキスト：介護福祉士国家試験　模擬問題集（中央法規出版）

参考書：

視聴覚教材：

成績評価方法：テスト、提出物、受講態度、見学態度等による総合評価

学生に望むこと：知識が定着するように事前学習や事後学習を行う習慣を身に付けてほしい。また、介護福祉士として求められる豊かな感性を身につけるため、積極的な姿勢で施設見学や外部講演視聴に参加してほしい

担当教員の資格・経歴等：

科 目 名	介護の基本Ⅱ（総合）	講　師　名	専任教員
授業形態	講義・演習・学外活動	授業時間数	１６時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	介護福祉士としての基礎知識をより確かなものにし、介護福祉士としての基本的な能力や感性を高めることを目的とする。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション		
3・4	社会の理解		
5・6	コミュニケーション技術・生活支援技術		
7・8	介護の基本・介護過程		
9・10	発達と老化の理解		
11・12	認知症の理解・障害の理解		
13・14	こころとからだのしくみ・医療的ケア		
15・16	総合問題		

使用テキスト：介護福祉士国家試験　模擬問題集（中央法規出版）、各単元の教科書

参考書：国試ナビ

視聴覚教材：

成績評価方法：テスト、提出物、受講態度、見学態度等による総合評価

学生に望むこと：

国家試験受験に向けた学習として事前学習をして授業に臨み、苦手分野の克服に繋がるよう復習もしっかりして欲しい。

担当教員の資格・経歴等：

科 目 名	アクティビティ法	講　師　名	松下裕子・水上琴美
授業形態	講義・実技	履修時間数	３０時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	アクティビティの意義を理解し、心身の健康づくり・生きがいづくりとなるアクティビティのあり方を考える。また、生活の活性化につなげるアクティビティ・サービスの方法を学ぶ。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	アクティビティ・サービスとは（定義・目的・効果・対象）		
3・4	生活支援とアクティビティ・サービス		
5・6	日本におけるアクティビティ・サービスと諸外国との比較		
7・8	アクティビティ・サービスの計画（役割・資質・ニーズ・個別支援・集団支援）		
9・10	アクティビティ・サービスの計画（留意点・計画）		
11・12	アクティビティ・サービスにおける ICF と支援		
13・14	アクティビティ・サービスの実践		
15・16	アクティビティ・サービス計画書の作成		
17・18	アクティビティ・サービス計画の発表		
19・20	筆記試験		
21・22	支援・ 援助の基本　自分への気づき		
23・24	支援・ 援助の基本　コミュニケーション ワーク　①		
25・26	支援・ 援助の基本　コミュニケーション ワーク　②		
27・28	援助のための人間理解		
29・30	まとめ		
使用テキスト：「アクティビティ・サービス」（中央法規出版）			
参考書：資料などはそのつど配布する。			
視聴覚教材：　ビデオ・ＤＶＤ・パワーポイントなど			
成績評価方法：出席（8 割以上）、試験（6 割以上）、提出物、受講態度などによる総合評価			
学生に望むこと：楽しいと感じる気持ちを大事にする。楽しい空間を作ることについて考える			
担当教員の資格：経歴等：　水上：介護福祉士、アクティビティワーカー養成担当教員免許 松下：中学校・高等学校教諭免許状（保健体育）、アクティビティワーカー、レクリエーションインストラクター、スポーツプログラマー、福祉レクリエーションワーカー			

科 目 名	アクティビティ法	講　師　名	松下　裕子
授業形態	講義・実技	履修時間数	３０時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	人間らしい生活、その人らしく生きることへの心配りを主軸として、生活や心身の活性化の援助となるアクティビティ・サービス（ケア）のあり方を学習する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	アクティビティワーカーの資質		
3・4	生活と話題　①		
5・6	生活と話題　②		
7・8	体を動かすしくみ　骨格・筋肉・関節		
9・10	日常生活を活かせるアクティビティ　①		
11・12	日常生活を活かせるアクティビティ　②		
13・14	認知症予防アクティビティ		
15・16	アクティビティ・サービスにおける計画　・・・事例検討		
17・18	アクティビティ・サービスにおける計画　・・・個別プログラム		
19・20	アクティビティ・サービスにおける計画　・・・集団プログラム		
21・22	プログラム演習		
23・24	プログラム演習		
25・26	プログラム演習		
27・28	演習評価		
29・30	総括		

使用テキスト：「アクティビティ・サービス」（中央法規出版）

参考書：資料などはそのつど配布する。

視聴覚教材：　ビデオ・ＤＶＤなど

成績評価方法：受講態度、出席、提出物６割、試験６割の総合評価

学生に望むこと：授業や実習に限らず様々なシーンでのアクティビティの活用を望みます。

担当教員の資格・経歴等：中学校・高等学校教諭免許状（保健体育）、アクティビティワーカー、レクリエーションインストラクター、スポーツプログラマー、福祉レクリエーションワーカー

科 目 名	音　楽	講　師　名	稗島　律子
授業形態	講義・演習	履修時間数	１６時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	現場で音楽を活用するための基礎知識及び音楽の有効性を学ぶ。幅広いジャンルの曲に取り組み、知識を深め、現場で聞き取りやすい声の大きさ、発音、表情を身につける。歌体操、手体操にも取り組み、また、リズム楽器やメロディ楽器、効果音楽器等も実際に使って有効な使い方を学ぶ。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	音楽の基礎知識について		
3・4	「歌うこと」による有効性と留意点		
5・6	「音楽に合わせて動きを伴うこと」による有効性と留意点		
7・8	「楽器を使うこと」による有効性と留意点		
9・10	「集団で行うこと」の長所・短所と留意点		
11・12	目的に応じて幅広いジャンルから選曲できるように童謡、唱歌、日本世界の抒情歌、歌謡曲、民謡、わらべ歌等多くの曲にふれる		
13・14	授業で学んだ内容をもとに生徒一人ひとりがテーマを決めて、現場での音楽の使い方を自分なりに工夫して考える（レポート）		
15・16	総括(歌唱) ・歌詞の内容を考えて表情豊かに感情こめて歌えたか ・ききとりやすい声の大きさで丁寧にわかりやすい発音で歌えているか		

使用テキスト：「お年寄りと楽しむ楽譜集 音の出会い」（ドレミ楽譜出版社）

参考書：「唱歌」「思い出の愛唱歌」「思い出のうた」「日本民謡集」（野ばら社)、「イチから知りたい楽典の教科書」（西東社)、「日本童謡集」（ドレミ出版)、「昭和の流行歌・歌詞集」（日本音楽教育センター)、「歌の処方箋」（カワイ）

視聴覚教材：

成績評価方法：出席(8 割以上)、実技試験、レポートによる総合評価

学生に望むこと：
・「音楽」の持つ大きな役割を感じ、現場での音楽の有効性を考える。
・現場で歌うことを考えて、大きな声でききとりやすい発音で表情豊かにうたう。

担当教員の資格・経歴等：
小学校教諭・中学校教諭専修免許状（音楽)、高等学校教諭専修免許状（音楽）

科 目 名	音 楽 療 法	講　師　名	関根　双葉
授業形態	講義・演習	履修時間数	１６時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	音楽療法的意義を学び、音楽演習により「人と音楽」の関係について気づきと学びを得る。さらに適切な音楽の活用方法を習得する。これらを得て介護に音楽の活用を推進する支援者を目指す。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	音楽の効果①（声・歌唱）		
3・4	障害と音楽①（失語症の音楽療法）		
5・6	音楽の効果②（リズム・楽器・音楽体験レポートより）		
7・8	障害と音楽②（認知症の音楽療法）		
9・10	音楽支援技術①（音楽の活用法、関わり方）		
11・12	音楽支援技術②（音楽レクリエーション計画）		
13・14	音楽支援技術③（音楽レクリエーション計画）		
15・16	まとめ		
使用テキスト：特になし　随時プリントを配布			
参考書：			
視聴覚教材：			
成績評価方法：テスト（60%）、発表（20%）、出席率・授業態度(20%)			
学生に望むこと：			
担当教員の資格・経歴等：日本音楽療法学会認定音楽療法士、福祉施設勤務、医療・福祉スタッフ対象研修会、市等介護予防健康教室講師、現在シニアトーンチャイムグループ主催			

科 目 名	コミュニケーション技術	講　師　名	梅木　美重子
授業形態	講義・演習	履修時間数	３０時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	介護を必要とする利用者との援助的関係や援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、及び他職種協働につながる専門的なコミュニケーション技術を身につける。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	介護におけるコミュニケーションの基本		
3・4	コミュニケーション態度に関する基本技術		
5・6	目的別のコミュニケーション技術		
7・8	集団におけるコミュニケーション技術		
9・10	コミュニケーション障害への対応の基本		
11・12	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援		
13・14	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援		
15・16	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援　まとめ		
17・18	家族とのコミュニケーション		
19・20	家族関係と介護ストレスへの対応		
21・22	チームのコミュニケーションとは　報告・連絡・相談の技術		
23・24	記録の技術		
25・26	会議・議事進行・説明の技術		
27・28	事例検討に関する技術		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座 5「コミュニケーション技術」（中央法規出版）			
参考書：資料などはそのつど配布する			
視聴覚教材：　ビデオ・ＤＶＤ・パワーポイントなど			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・ファイル管理・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：コミュニケーションは相互理解を深め、わかり合うものであり、利用者はもとより自己覚知が基本である。学びを通して人間的成長を期待する。人との関わりにおいて、伝える技術の向上を目指す。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士、介護施設勤務 6 年、教員 15 年以上			

科 目 名	手　話	講　師　名	聴覚障害者協会
授業形態	実技・講義	履修時間数	１６時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	聴覚障害の基礎知識、手話の基礎知識を習得する。 聴覚障害の特性に応じた福祉に関する知識を習得する。 手話で自己紹介できるようになる。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	オリエンテーション＜手話を学ぶにあたって＞ 講義　聴覚障害者にとってのバリアフリーとは 手話の基本（表情・強弱・形）		
3・4	手話の基本　名前・挨拶＊名前はフルネームを指導		
5・6	手話の基本　数字（誕生日・年齢含む）		
7・8	手話の基本　家族		
9・10	手話の基本　住所		
11・12	手話の基本　仕事		
13・14	総復習 自己紹介をしてみよう		
15・16	総括		

使用テキスト：「聴さんと学ぼう！」（一般財団法人　全日本ろうあ連盟）
参考書：
視聴覚教材：必要に応じて使用します（ＤＶＤなど）
成績評価方法：試験、レポート、授業態度、出席総合評価
学生に望むこと：人への関心と気付きを現場や業務に活かせるようになってほしい
担当教員の資格・経歴等：手話指導者

科 目 名	手　話	講　師　名	聴覚障害者協会
授業形態	実技・講義	履修時間数	１６時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	聴覚障害の基礎知識、手話の基礎知識を習得する。 聴覚障害の特性に応じた福祉に関する知識を習得する。 手話で自己紹介できるようになる。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	オリエンテーション＜手話を学ぶにあたって＞ 講義　聴覚障害者にとってのバリアフリーとは 手話の基本（表情・強弱・形）		
3・4	手話の基本　名前・挨拶＊名前はフルネームを指導		
5・6	手話の基本　数字（誕生日・年齢含む） 手話の基本　家族		
7・8	手話の基本　住所 手話の基本　仕事		
9・10	総復習 自己紹介をしてみよう		
11・12	総括		
使用テキスト：「聴さんと学ぼう！」（一般財団法人　全日本ろうあ連盟）			
参考書：			
視聴覚教材：必要に応じて使用します（ＤＶＤなど）			
成績評価方法：試験、レポート、授業態度、出席総合評価			
学生に望むこと：人への関心と気付きを現場や業務に活かせるようになってほしい			
担当教員の資格・経歴等：手話指導者			

科 目 名	点　字	講　師　名	松田　洋子
授業形態	講義・実技（墨字訳・点訳）	履修時間数	１６時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	視覚障害者が情報を入手・伝達する手段としての「文字」である点字に関しての知識を得て、読む・書くの技術の習得をはかるとともに、視覚障害者の現状に対する理解を深め、実際に接する際に役立てる。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	点字の構成と基本的表記法の解説 読み方（墨字訳）　－清音・濁音・拗音－		
3・4	読み方（墨字訳）　－数字・アルファベット・特殊音－		
5・6	点字器の使い方　　・書き方（点　訳）　－清音・濁音・拗音－		
7・8	書き方（点訳）　－数字・アルファベット－		
9・10	書き方（点訳）　－文章の分かち書き－		
11・12	テキスト演習（１）		
13・14	テキスト演習（２）		
15・16	総括		
使用テキスト：「初めての点訳　第３版」（全国視覚障害者情報提供施設協会）			
参考書：			
視聴覚教材：			
成績評価方法：授業各回における提出物の評価と試験における点訳修得度			
学生に望むこと：聞き逃した説明は遠慮なく質問し、一行でも多く書くよう努めてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：日本盲人社会福祉施設協議会　点字指導員・石川県点訳友の会会員			

科 目 名	文 化 交 流	講　師　名	専任教員
授業形態	講義	履修時間数	１０時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	自分たちの生活圏の文化を調べたり、伝えていく過程で、多文化を理解し様々な生活文化について理解を深める。 多様な文化を知ることで世界観を広げるとともに、日常の文化を理解し、生活に必要な一般教養を身に付ける。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	いただきます		
3・4	不思議な言葉・便利な言葉		
5・6	各国の衣食住		
7・8	各国のルール・仕事のルール		
9・10	価値観について		

使用テキスト：

参考書：資料などはその都度配布する

視聴覚教材：　ビデオ・ＤＶＤ・パワーポイントなど

成績評価方法：出席状況・提出物・受講態度等による総合評価

学生に望むこと：基本的なコミュニケーション技術が身に付くよう積極的に取り組むこと

担当教員の資格・経歴等：

科 目 名	居住環境の整備	講　師　名	宮谷　和良
授業形態	講義	履修時間数	１６時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	住生活を営む上で必要な住まい等についての基礎的な知識を習得し、心身の機能が低下したときに、どのような住環境が求められるかを考察する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	暮らしやすい生活環境をめざして		
3・4	健康と自立をめざして		
5・6	バリアフリーとユニバーサルデザイン		
7・8	安全・安心・快適な住まい		
9・10	安心できる住生活とまちづくり		
11・12	地域で取り組む福祉のまちづくり実践事例		
13・14	ケーススタディ（事例検討）		
15・16	総括		

使用テキスト：「福祉住環境コーディネーター検定試験 3 級公式テキスト」

参考書：適宜プリント配布

視聴覚教材：ビデオ

成績評価方法：筆記試験、小テスト、受講態度等による総合評価

学生に望むこと：安全・安心で健康的な自立生活を送るための環境づくりを考える。福祉住環境コーディネーター3 級の合格を目指し、多角的な視点から、知識を習得してほしい。

担当教員の資格・経歴等：社会福祉士、臨床倫理認定士、人間学修士

科 目 名	家事援助(講義)	講　師　名	水上　琴美
授業形態	講義	履修時間数	１６時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	利用者を主体とした生活の維持及び再構築の視点や具体的手法、地域サービスの活用等、在宅生活を含めた家事支援の重要性と実際及び「暮らし」についての学びを深める。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	生活支援とは		
3・4	ライフサイクルと生活の豊かさ		
5・6	家事の重要性・介護保険と自立支援		
7・8	自立に向けた家事の介護（調理・洗濯・掃除）		
9・10	自立に向けた家事の介護（裁縫・衛生・買い物・家庭経営・家計の管理）		
11・12	被災地で活動する際の心構え		
13・14	生活支援とチームアプローチ・ＩＣＦの視点に基づく生活支援		
15・16	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第6巻「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版）			
参考書：適宜プリント配布			
視聴覚教材：適宜使用・パワーポイント・ＤＶＤ			
成績評価方法：定期試験及び課題提出、授業態度にて評価			
学生に望むこと：「暮らし」を支える家事支援の重要性と同じ生活者としての視点から利用者と共に考える専門的介護を学んでほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士資格			

科 目 名	家事援助 （衣・講義と演習）	講　師　名	水上　琴美
授業形態	講義・演習	履修時間数	１６時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	生活を継続していくための家事の重要性と介護職が担う家事支援の専門性について理解する。衣服の役割と機能に関する知識及び基本的な縫製技術を習得する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	縫製介助におけるアセスメントの視点の理解		
3・4	被服の役割と機能・管理方法　加齢・障害に応じた被服の工夫		
5・6	基本的な縫製技術習得　　縫製技術を使って小物の作製（製作手順・説明）		
7・8	縫製技術を使って小物の作製（裁断・縫製等）		
9・10	縫製技術を使って小物の作製（裁断・縫製等）		
11・12	縫製技術を使って小物の作製（ボタン・スナップの付け方）		
13・14	製作品発表・展示会		
15・16	総 括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第 6 巻「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版）			
参考書：教材プリント使用			
視聴覚教材：パワーポイント等			
成績評価方法：提出物・作品・学習態度・出席状況・筆記試験等による総合評価			
学生に望むこと：家事支援、裁縫の必要な支援をＩＣＦに沿って考えることが出来、具体的な支援が可能となるよう基本的な裁縫技術を身につけてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士資格			

科 目 名	家 事 援 助 （食・講義と演習）	講　師　名	南　友美
授業形態	講義・演習	履修時間数	３０時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	生活支援技術の重要なひとつとしての食事に関する家事援助を習得する。「食」の意義と役割を理解し、食品衛生に留意して基本の調理を学び、個々人の状況に合わせた家事援助に対応できる技術を得る。演習では、健康寿命延伸のためのバランスのよい食事から、嚥下食など展開食を実施する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	栄養の理解：栄養素　概論　人体の構造と栄養素		
3・4	栄養の理解：栄養素　各論　五大栄養素について		
5・6	食品の衛生：食中毒予防　安全な食品購入と選択、保存方法		
7・8	調理の基本：道具の取り扱い・食費の取り扱い		
9・10	演習（調理実習）①　野菜の切り方・色々な調理法		
11・12	調理の基本：献立の立て方		
13・14	演習（調理実習）②「ケの料理」一汁三菜のバランスの良い食事		
15・16	高齢者の身体機能と栄養　障害のある人への配慮		
17・18	演習（調理実習）③　高齢者への配慮		
19・20	演習（調理実習）④　介護食・展開食・嚥下食		
21・22	楽しい演出：食事の演出や主な行事食		
23・24	演習（調理実習）⑤　行事食への配慮		
25・26	演習（調理実習）⑥「ハレの料理」加賀野菜を使って美味しい介護職		
27・28	疾患と食事　生活習慣病予防		
29・30	試験・解説・まとめ		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第 6 巻「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版）			
参考書：食品成分表			
視聴覚教材：パワーポイント			
成績評価方法：出席状況・学習態度・演習・筆記試験などの総合評価			
学生に望むこと：介護支援における「食事」の役割を理解すること。生きる基本である食事を栄養素の基本を知ることから、適切な調理、適切な食事介助等習得し、介護現場において多職種と協働して支援できる介護福祉士を目指すこと。			
担当教員の資格・経歴等：管理栄養士、調理師免許			

科 目 名	生活支援技術(演習)	講 師 名	専任教員
授業形態	演習	履修時間数	６０時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科　１学年
授業の目的	対象者の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。		

回 数	授 業 内 容	回 数	授 業 内 容
1・2	生活支援とは	31・32	前期の振り返り
3・4	ベッドメーキング	33・34	事例演習①
5・6	ボディメカニクス・基本動作	35・36	事例演習②
7・8	自立に向けた介護（体位変換）①	37・38	事例演習③
9・10	自立に向けた介護（体位変換）②	39・40	バイタルチェック
11・12	自立に向けた食事の介護	41・42	振り返りⅠ
13・14	自立に向けた清潔保持の介護	43・44	振り返りⅡ
15・16	自立に向けた排泄の介護（おむつ）①	45・46	振り返りⅢ
17・18	自立に向けた排泄の介護（立位）②	47・48	まとめ
19・20	事例演習①	49・50	まとめ
21・22	事例演習②	51・52	まとめ
23・24	事例演習③	53・54	実技試験
25・26	振り返り①	55・56	自立に向けた清潔（シーツ交換）の介護
27・28	振り返り②	57・58	自立に向けた清潔（洗濯）の介護
29・30	実技試験	59・60	自立に向けた着脱の介護

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第7巻「生活支援技術Ⅱ」（中央法規出版）

参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う

視聴覚教材：パワーポイント・ＤＶＤ

成績評価方法：筆記試験・実技試験・出席状況・提出物・演習態度等による総合評価

学生に望むこと：自立に向けた基本的な介護技術が身につくよう主体的かつ積極的に取り組むことを期待する。また技術の根底には介護者としての人間性が反映されるので、人間としての成長も心がけてほしい。

担当教員の資格・経歴等：介護福祉士資格　看護師資格

科 目 名	生活支援技術(演習)	講　師　名	専任教員
授業形態	演習	履修時間数	６０時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	対象者の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	体位変換・移乗の技法	31・32	洗髪・整髪・洗面介助
3・4	介護を考えよう①（高齢者体験）	33・34	移乗の技法（車）
5・6	排泄技法（ポータブル・おむつ）	35・36	持ち上げない介護（講義）
7・8	バイタルサイン	37・38	持ち上げない介護（実技）
9・10	事例演習①	39・40	事例演習①
11・12	事例演習②	41・42	事例演習②
13・14	事例演習③	43・44	事例演習③
15・16	事例演習④	45・46	事例演習④
17・18	事例演習⑤	47・48	事例演習⑤
19・20	振り返り①	49・50	事例演習⑥
21・22	振り返り②	51・52	振り返り①
23・24	振り返り③	53・54	振り返り②
25・26	実技試験	55・56	振り返り③
27・28	ターミナルケア	57・58	実技試験
29・30	罨法・洗濯など（復習）	59・60	介護を考えよう②（事例）
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第7巻「生活支援技術Ⅱ」（中央法規出版）、「持ち上げない移動・移乗技術」（中央法規出版）			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・ＤＶＤ			
成績評価方法：筆記試験・実技試験・出席状況・提出物・演習態度等による総合評価			
学生に望むこと：自立に向けた基本的な介護技術が応用できるようになり、将来介護福祉士として個々の対象者に最適なサービスを提供できる能力を習得してほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士資格　看護師資格			

科 目 名	形態別生活支援技術 (講義)	講　師　名	畠山宏士・水上琴美
授業形態	講義	履修時間数	３０時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	各障害の特性の理解を深めたうえで、障害者の潜在能力を引き出し、障害に合わせた適切な生活支援や安全に援助できる知識を学び実践の礎を築く。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	運動機能障害に応じた介護		
3・4	高次脳機能障害に応じた介護		
5・6	内部障害に応じた介護①		
7・8	内部障害に応じた介護②		
9・10	内部障害に応じた介護③		
11・12	内部障害に応じた介護④		
13・14	重症心身障害に応じた介護		
15・16	まとめ		
17・18	視覚障害に応じた介護		
19・20	聴覚・言語障害に応じた介護		
21・22	重複障害に応じた介護		
23・24	知的障害に応じた介護		
25・26	精神障害に応じた介護		
27・28	発達障害に応じた介護		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第８巻「生活支援技術Ⅲ」（中央法規出版）			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ＤＶＤ			
成績評価方法：提出物・学習態度・出席状況・筆記試験等による総合評価			
学生に望むこと：障害の概念と障害者の実態ならびに障害が及ぼす影響について理解し、障害に応じた介護方法を習得してほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士資格　看護師資格			

科 目 名	形態別生活支援技術 (演習)	講　師　名	専任教員
授業形態	演習	履修時間数	３０時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	障害者の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることを含めた障害に合わせた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる実践的な技術や知識を習得する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	運動機能障害に応じた介護（着脱）①		
3・4	運動機能障害に応じた介護（着脱）②		
5・6	運動機能障害に応じた介護（車いす移動）		
7・8	運動機能障害に応じた介護（杖移動）		
9・10	形態に応じた介護（移乗）		
11・12	障害者スポーツ大会参加（レポート課題）		
13・14	運動機能障害に応じた介護（入浴）		
15・16	前期総括		
17・18	リハビリ施設等見学（レポート課題）		
19・20	運動機能障害に応じた介護（ゆかたの着脱）		
21・22	運動機能障害に応じた介護（車いす移乗）①		
23・24	運動機能障害に応じた介護（車いす移乗）②		
25・26	運動機能障害に応じた介護・器具の理解（排泄）		
27・28	運動機能障害に応じた介護（部分浴）		
29・30	後期総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第8巻「生活支援技術Ⅲ」（中央法規出版）			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・ＤＶＤ			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・演習態度等による総合評価			
学生に望むこと：障害の概念と障害者の実態ならびに障害が及ぼす影響について理解し、障害に応じた介護方法を身につけてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士資格　看護師資格			

科 目 名	形態別生活支援技術 (演習)	講　師　名	専任教員
授業形態	演習	履修時間数	１６時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	障害者の自立・自律を尊重し潜在能力を引き出し見守り、障害に合わせた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる実践的な知識や技術を習得する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	改良衣服の種類と機能・着脱の技法		
3・4	視覚障害者の歩行介助と食事介助		
5・6	整容の技法		
7・8	片麻痺の利用者の清拭		
9・10	起居動作（床からの立ち上がり）		
11・12	様々な福祉用具の活用		
13・14	片麻痺をイメージしての調理体験（障害者用調理器具使用）		
15・16	総括		

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第6巻「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版）
最新・介護福祉士養成講座第8巻「生活支援技術Ⅲ」（中央法規出版）

参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う

視聴覚教材：パワーポイント・ＤＶＤ

成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・演習態度等による総合評価

学生に望むこと：障害の概念と障害者の実態ならびに障害が及ぼす影響について理解し、障害に応じた介護方法を身につけてほしい。

担当教員の資格・経歴等：介護福祉士資格　看護師資格

科 目 名	緊急時の対応	講　師　名	日本赤十字社石川県支部 （岩本　勝）
授業形態	講義・講演	履修時間数	３０時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師または救急隊などに引継ぐまでの一次救命処置と応急手当を学び、赤十字救急法救急員（ファーストエイドプロバイダー）の資格を取得する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	赤十字救急法について（学科）　　手当の基本（学科・実技）		
3・4	一次救命処置（学科・実技）		
5・6	全体実技・学科総括		
7・8	赤十字救急法救急員〈ﾌｧｰｽﾄｴｲﾄﾞﾌﾟﾛﾊﾞｲﾀﾞｰ〉について・急病（学科）		
9・10	けが・止血・きずの手当（学科）		
11・12	止血・きずの手当（実技）		
13・14	きずの手当（実技）		
15・16	きずの手当（実技）		
17・18	骨折の手当（学科・実技）		
19・20	骨折の手当（実技）		
21・22	搬送（学科・実技）		
23・24	救護（学科・実技）		
25・26	総合学習		
27・28	学科総括		
29・30	実技総括		

使用テキスト：「赤十字救急法基礎講習」・「赤十字救急法講習」

参考書：「改訂５版　救急蘇生法の指針 2015（市民用）」（へるす出版）

視聴覚教材：

成績評価方法：学科・実技総括、出席状況、学習態度等による総合評価

学生に望むこと：この科目を学習した生徒が、自分自身の自己防止とともに、地域や職場で病気やけがをした人に対して適切に手当てを実施できるようになること。

担当教員の資格・経歴等：赤十字救急法指導員

科 目 名	介護過程Ⅰ	講　師　名	水上　琴美
授業形態	講義・演習	履修時間数	３０時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる基礎的能力を養う。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	介護過程の意義・目的		
3・4	アセスメントとは（関わりの基本）		
5・6	生活支援における介護過程の必要性		
7・8	介護過程の理解		
9・10	介護過程の展開		
11・12	アセスメントとは（ＩＣＦの視点にそっての情報の収集と分析）		
13・14	アセスメントとは（情報の分析と課題の明確化）		
15・16	介護過程の理解（アセスメント）		
17・18	介護過程の理解（アセスメント）		
19・20	介護過程の理解（介護計画の立案）		
21・22	介護過程の理解（介護の実施）		
23・24	介護過程の理解（評価）		
25・26	介護過程の実践的展開		
27・28	総括		
29・30	学習内容の振り返り		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座 9「介護過程」（中央法規出版）			
参考書：資料等は適宜配布			
視聴覚教材：ＤＶＤ・パワーポイントなど			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・ファイル管理・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：「利用者の尊厳を守るケア」「個別ケア」を行うにあたり、専門的知識・技術を根拠とした客観的、科学的思考過程による介護過程の展開能力を身につけてこそ、さらにケアの質が高まり、利用者主体の生活支援につながるということを理解してほしい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士、介護施設勤務 9 年、ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨﾜｰｶｰ養成担当教員免許状			

科 目 名	介護過程Ⅱ（演習）	講　師　名	水上　琴美
授業形態	講義・演習	履修時間数	６０時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	他科目で学習した知識や技術を統合し介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる実践的能力を養う。事例を通し生活の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力を理解する。		

回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	ケアマネジメントの全体像	31・32	アセスメントの実際　［事例演習］
3・4	ケアプランと個別援助計画の関係性	33・34	アセスメントの実際　［事例演習］
5・6	チームアプローチの意義	35・36	アセスメントの実際　［事例演習］
7・8	チームアプローチの実際	37・38	介護計画立案の実際　［事例演習］
9・10	介護過程の実践的展開	39・40	介護計画立案の実際　［事例演習］
11・12	介護過程の展開に向けての記録演習（文章力・漢字力の養成）	41・42	介護計画立案の実際　［事例演習］
13・14	介護過程の展開に向けての記録演習（文章力・漢字力の養成）	43・44	介護計画立案の実際　［事例演習］
15・16	情報ツールの記入の実際[事例演習]	45・46	介護福祉士の仕事の魅力
17・18	情報ツールの記入の実際[事例演習]	47・48	生活のなかで感じる地域性
19・20	情報ツールの記入の実際[事例演習]	49・50	介護過程の展開に向けての記録演習（文章力・漢字力の養成）
21・22	情報ツールの記入の実際[事例演習]	51・52	介護計画展開の実際［第２段階実習事例演習］
23・24	アセスメントの実際　［事例演習］	53・54	介護計画展開の実際［第２段階実習事例演習］
25・26	アセスメントの実際　［事例演習］	55・56	介護計画展開の実際［第２段階実習事例演習］
27・28	アセスメントの実際　［事例演習］	57・58	介護計画展開の実際［第２段階実習事例演習］
29・30	総括	59・60	総括

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第９巻「介護過程」（中央法規出版）

参考書：資料などはその都度配布する

視聴覚教材：ビデオ・ＤＶＤ・パワーポイントなど

成績評価方法：筆記試験・出席状況・ファイル管理・提出物・受講態度等による総合評価

学生に望むこと：

1. 利用者を主体とした介護過程を展開するための実践的な知識と技術を身につけることを期待する。
2. 上記を達成するために、演習等においては積極的かつ自主的に取り組み、実践的な態度を養うこと。

担当教員の資格・経歴等：介護福祉士、介護施設勤務９年、ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨﾜｰｶｰ養成担当教員免許状

科 目 名	介護過程Ⅲ（課題研究）	講　師　名	渡部　美奈子
授業形態	講義・演習	履修時間数	３０時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	介護過程に沿い体験した介護方法を研究論文にまとめる過程を学ぶとともに、研究発表の手法を学ぶ。学内外で研究等の発表を聴き、また大勢の前で自らの意見を発表する機会を持つことで介護福祉士としての視点や応用能力を養う。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	2年生ケアスタディの振り返り　グループワーク（1・2年生合同）		
3・4	事例検討　グループワーク（1・2年生合同）		
5・6	研究の種類と内容		
7・8	求められる介護者の姿について（検討と発表）		
9・10	事例研究と課題研究		
11・12	正しい文章の作成		
13・14	「私の介護観」の作成に向けてのアイデアの抽出		
15・16	「私の介護観」アイデア発表		
17・18	論文のまとめ方と書き方　　「私の介護観」小論文作成		
19・20	日頃の気づきから研究テーマへ　～アイデアを形にする方法～		
21・22	グループワーク　～アイデアを形に～		
23・24	グループワーク　～形を文章へ～		
25・26	グループワーク　　～アイデアの発表～		
27・28	ケアスタディの内容と書き方		
29・30	総括		
使用テキスト：「よくわかる介護福祉研究入門」（保育社）			
参考書：「介護事例研究の手引」第3版（日総研出版）、プリント適宜			
視聴覚教材：ビデオ・パワーポイント・ＤＶＤなど			
成績評価方法：筆記試験、提出物、ファイル管理、演習態度等総合的に評価する			
学生に望むこと：他者の意見に耳を傾けながら自己の思考過程や文章作成能力をみがき、発表へとつなげてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：看護師、病院勤務12年、教員10年以上			

科 目 名	介護過程Ⅲ（課題研究）	講　師　名	渡部　美奈子
授業形態	講義・演習	履修時間数	３０時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	介護過程に沿い体験した介護方法を研究論文にまとめる過程を学ぶとともに、研究発表の手法を学ぶ。また、学内外の大勢の聴衆の前で発表し、発表を聴く機会を持つことで介護福祉士としての視点や応用能力を養う。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	仮説を立てる 仮説の検証について	1・2	ケアスタディ作成（本文）
3・4	データ収集　データ分析①	3・4	ケアスタディ提出・個別指導
5・6	データ収集　データ分析②	5・6	質問事項の確認・読み原稿作成
7・8	発表	7・8	プレゼンテーションの技法・ 読み練習
9・10	個別援助について ケアスタディの内容と書き方 ケアスタディ作成の心得 入力説明	9・10	ケアスタディ発表会 リハーサル
11・12	ケアスタディ作成開始 （「タイトル」「はじめに」）	11・12	ケアスタディ発表会
13・14	前期学習内容の振り返り	13・14	ケアスタディの振り返り グループワーク （1・2年生合同）
		15・16	事例検討　グループワーク （1・2年生合同）
使用テキスト：「よくわかる介護福祉研究入門」（保育社）			
参考書：「介護事例研究の手引」第3版（日総研出版）、プリント適宜			
視聴覚教材：ビデオ・パワーポイント・ＤＶＤなど			
成績評価方法：筆記試験、提出物、ファイル管理、演習態度等総合的に評価する			
学生に望むこと：授業の目的に照らし必要な知識や技術を修得するために積極的かつ主体的に取り組むことを期待する。授業での過程を通して常に自己評価し、他者の意見に耳を傾けながら自己の思考過程や文章作成能力をみがいて、発表へとつなげてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：看護師、病院勤務12年、教員10年以上			

科 目 名	介護総合演習Ⅰ	講 師 名	畠山　宏士
授業形態	演習	履修時間数	６０時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	介護実習に向けて、心構えを確認し、予備知識を蓄え、実習に対する動機づけを深め、介護実習に臨む準備を行う。実習後は十分な振り返りを行うことで、介護実習で学んだ内容の深化をはかる。		

回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	介護実習の意義と目的	31・32	「第 1 段階実習のまとめ」清書
3・4	施設種別の理解	33・34	学内振返り会準備
5・6	事前学習ノート作成説明・実習記録（説明）	35・36	第 1 段階実習学内振返り会
7・8	実習記録について（記録演習）	37・38	第 2 段階実習について
9・10	実習記録について（記録演習）	39・40	実習記録について（復習）
11・12	施設実習要綱説明・第 1 段階実習について	41・42	実習記録について（説明）
13・14	第 1 段階実習施設別書類作成	43・44	第 2 階実習施設別書類作成
15・16	情報交換会準備	45・46	後期末筆記試験
17・18	2 年生との情報交換会	47・48	第 2 段階実習事前面接
19・20	前期末筆記試験	49・50	第 2 段階実習事前オリエンテーション
21・22	第 1 段階実習事前面接(ガイダンス)	51・52	第 2 段階実習振返り・事後指導
23・24	第 1 段階実習事前面接	53・54	「第 2 段階実習のまとめ」清書
25・26	第 1 段階実習記録用紙配布等	55・56	学内振返り会準備
27・28	第 1 段階実習事前オリエンテーション	57・58	第 2 段階実習学内振返り会
29・30	第 1 段階実習振返り・事後指導	59・60	訪問介護実習について

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第 10 巻「介護総合演習・実習」（中央法規出版）

参考書：適宜、授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う

視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・ＤＶＤ

成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・学習態度等による総合評価

学生に望むこと：対人業務として必要な基本的態度や社会的常識を体得し、これまで学習してきた全ての科目の知識や技術を実践に活かせるように、授業や情報収集に積極的に取り組むことで充実した学習や実習になることを期待する。

担当教員の資格・経歴等：看護師、介護施設勤務 15 年以上

科 目 名	介護総合演習Ⅱ	講　師　名	水上　琴美
授業形態	演習	履修時間数	６０時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	第 3 段階実習にむけて、心構え・予備知識・動機づけの機会とし介護実践能力を身につけられるような実習とする。実習後は十分な振返りを行い、介護実習で学んだ内容の深化や今後の介護観・職業観に繋げられる学習とする。		

回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	第 3 段階実習の目標と内容	31・32	帰校日
3・4	コミュニケーションについて(振返り)	33・34	第 3 段階実習振返り・事後指導
5・6	介護過程について（振返り）	35・36	「第 3 段階実習のまとめ」清書
7・8	第 3 段階実習記録物の様式の理解	37・38	学内振返会準備
9・10	第 3 段階実習施設別書類作成	39・40	第 3 段階実習学内振返会
11・12	個人表・概要表作成	41・42	第 3 段階実習を終えて（振返り）
13・14	情報交換会の準備	43・44	第 3 段階実習を終えて（発表）
15・16	1 年生との情報交換会	45・46	ＤＶＤによる学習
17・18	第 3 段階実習事前面接	47・48	資格取得時の到達目標について
19・20	第 3 段階実習記録用紙配布等	49・50	介護とは何かを考える
21・22	第 3 段階実習事前オリエンテーション	51・52	福祉について
23・24	前期末総括	53・54	地域と福祉
25・26	施設見学①	55・56	施設種別について（学習）
27・28	施設見学②	57・58	施設種別について（発表）
29・30	施設見学振返り	59・60	後期末総括

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第 10 巻「介護総合演習・実習」（中央法規出版）
参考書：適宜、授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・ＤＶＤ
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・学習態度等による総合評価
学生に望むこと：対人援助職として必要な基本的態度や社会的常識を体得し、これまで学習してきた全ての科目の知識や技術を実践に活かせるように、授業や情報収集に積極的に取り組むことで充実した学習や実習になることを期待する。
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士、介護施設勤務 9 年、ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨﾜｰｶｰ養成担当教員免許状

科 目 名	発達と老化の理解Ⅰ （人間の成長と発達）	講　師　名	渡部　美奈子
授業形態	講義	履修時間数	１６時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	人間の成長と発達の過程、各発達段階におけるライフサイクルの特徴を理解し、各発達段階における身体的・心理的・社会的変化が生活に及ぼす影響を理解する。そして、各発達段階におけるライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	成長・発達の考え方		
3・4	遺伝と環境		
5・6	発達理論		
7・8	胎児期～乳児期の発達段階の特徴		
9・10	幼児期～学童期の発達段階の特徴		
11・12	青年期～成人期の発達段階の特徴		
13・14	老年期の発達段階の特徴		
15・16	総括		

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第 12 巻「発 達と老化の理解」（ 中央法規出版）

参考書：適宜、授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う

視聴覚教材：パワーポイント、プリント配布

成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・受講態度等による総合評価

学生に望むこと：授業中のディスカッションに積極的に参加すること。
ノート・プリントは整理して見やすくしておくこと。

担当教員の資格・経歴等：看護師、病院勤務 12 年、教員 10 年以上

科 目 名	発達と老化の理解Ⅱ (老化に伴うこころとからだの変化)	講 師 名	大倉　清美
授業形態	講義	履修時間数	１６時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	「老化」を理解するために、老年期の心理的特徴や身体機能に関する基礎的知識を身につける。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	老化と加齢		
3・4	老年期の発達課題		
5・6	人格と尊厳　老いの価値		
7・8	老年期をめぐる今日的課題		
9・10	老化に伴う心理的な変化と生活への影響（認知機能・知的機能の変化）		
11・12	老化に伴う心理的な変化と生活への影響（パーソナリティの変化と適応機制）		
13・14	老化に伴う社会的な変化と生活への影響		
15・16	総括		

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第12巻 「発達と老化の理解」（中央法規出版）

参考書：適宜、授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う

視聴覚教材：パワーポイント

成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・受講態度等による総合評価

学生に望むこと：講義や授業中のディスカッションに積極的に参加すること

担当教員の資格・経歴等：介護福祉士、介護支援専門員

科 目 名	発達と老化の理解Ⅱ (老化に伴うこころとからだの変化)	講 師 名	渡部　美奈子
授業形態	講義	履修時間数	１４時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	老年期における心理的・身体的・社会的変化が生活に及ぼす影響を理解し、老年期の特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	加齢による生理機能の全体的低下		
3・4	身体的機能の低下と日常生活への影響（骨・筋肉・関節）		
5・6	身体的機能の低下と日常生活への影響（脳神経系　感覚器系）		
7・8	身体的機能の低下と日常生活への影響（血液・循環器系　呼吸器系）		
9・10	身体的機能の低下と日常生活への影響（消化器系・腎泌尿器系）		
11・12	身体的機能の低下と日常生活への影響（生殖器系　内分泌・代謝系　免疫系）		
13・14	総括		

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第12巻 「発達と老化の理解」（中央法規出版）

参考書：適宜、授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う

視聴覚教材：パワーポイント

成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・受講態度等による総合評価

学生に望むこと：多側面に渡る身体的老化現象を理解し、日常生活にどのように影響するのかを理解して欲しい。ノート・プリントは整理して見やすくしておくこと。

担当教員の資格・経歴等：看護師、病院勤務 12 年、教員 10 年以上

科 目 名	発達と老化の理解Ⅲ （高齢者と健康）	講　師　名	岡田　源作
授業形態	講義	履修時間数	１６時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	健康寿命を経て、要介護時代に入るヒトの病気と症状と要介護の流れを理解し、国家試験の視点について関わりの中で学ぶ		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	自立と要介護－ＡＤＬ、日常の生活にみられる要介護の例、要介護度		
3・4	高齢者に多い症状（30 種類以上の中で）を理解し、介護上の関わりを考える		
5・6	生活介護で重視される脱水、入浴、睡眠等の問題点の理解を深める		
7・8	糖尿病・高血圧について理解を深め、症状・介護と国試の取り扱いについて理解する		
9・10	死因の高い病気と要介護になる病気を学び、介護の実例と介護の工夫を考える		
11・12	高齢者に多い病気と介護①		
13・14	高齢者に多い病気と介護②		
15・16	総括		
使用テキスト：新・介護福祉士養成講座第 11 巻「発達と老化の理解」（中央法規出版）			
参考書：国試・過去問題解説集			
視聴覚教材：			
成績評価方法：出席（8 割以上）、試験（6 割以上）、提出物、受講態度による総合評価			
学生に望むこと：テレビや新聞などで話題になっている出来事と介護との関わりのある例はよく見聞きしてほしい。			
担当教員の資格・経歴等：医学博士			

科 目 名	認知症の理解Ⅰ (認知症の基礎的理解)	講　師　名	梅木　美重子
授業形態	講義	履修時間数	１６時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	認知機能の変化が本人の生活にどのような影響を及ぼすのか、行動と環境との関係を理解し、「生活」とは何かを考え、環境を活かした介護を提供する上での課題を理解する		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	認知症を取り巻く状況　　認知症ケアの理念と視点		
3・4	認知症の当事者の視点からみえるもの		
5・6	パーソン・センタード・ケア		
7・8	認知症の人の心理的ニーズの理解		
9・10	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール		
11・12	認知症の人とのコミュニケーション　　認知症の人へのケア		
13・14	認知症の人へのさまざまなアプローチ　　認知症の人への環境づくり		
15・16	総括		

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座13「認知症の理解」（中央法規出版）

参考書：適宜プリント資料等配布、参考文献の紹介

視聴覚教材：パワーポイント、ＤＶＤ

成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・受講態度等による総合評価

学生に望むこと：認知症の人が特別な人ではないということを理解し、人が生きることを支える際の介護職の役割を理解し、あきらめないかかわりを追求してほしい。

担当教員の資格・経歴等：介護福祉士、介護施設勤務 6 年、教員 15 年以上

科 目 名	認知症の理解Ⅱ （医学的知識）	講　師　名	油野　祥子
授業形態	講義	履修時間数	３０時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	認知症を理解するにあたり、加齢による変化、脳の仕組み、認知症の種類や症状、それらのケアについての知識を学ぶ。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	認知症とは何か・老化とはどのようなことか		
3・4	脳のしくみ①　脳の構造・機能、認知症の病理など		
5・6	脳のしくみ②　脳の構造と症状の関係、意識障害でないことの理解など		
7・8	認知症の人の心理		
9・10	中核症状の理解		
11・12	生活障害の理解		
13・14	ＢＰＳＤの理解①　ＢＰＳＤの定義、要因（背景因子）、誘因		
15・16	ＢＰＳＤの理解②　主要なＢＰＳＤ		
17・18	認知症の診断と重症度		
19・20	認知症の原因疾患と症状・生活障害①　アルツハイマー型認知症など		
21・22	認知症の原因疾患と症状・生活障害②　前頭側頭型認知症など		
23・24	認知症の治療薬・認知症の予防		
25・26	認知症の人の終末期医療と介護		
27・28	試験		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座 第13巻「認知症の理解」（中央法規出版）			
参考書：なし　講義中に参考文献を紹介			
視聴覚教材：パワーポイント			
成績評価方法：試験＋授業態度			
学生に望むこと：社会資源、教材、メディア等を活用し、知識とその根拠を習得する			
担当教員の資格・経歴等：看護師資格、医療的ケア教員資格			

科 目 名	認知症の理解Ⅲ （地域における支援）	講　師　名	大倉　清美
授業形態	講義	履修時間数	１６時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	認知症のある人が地域で暮らすために必要な資源を学び、地域のサポート体制について理解する。実際の現場でのケアを支える制度と具体的な他職種協働等について学び、認知症のある人を支える意義を理解する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	認知症の人の家族を支える視点		
3・4	認知症の人の家族への支援とレスパイトケア		
5・6	介護福祉職への支援（職場環境の整備）		
7・8	認知症ケアを実践するために		
9・10	制度理解（新オレンジプランへ）		
11・12	若年性認知症の人　認知症当事者による支援		
13・14	多職種連携と協働		
15・16	統括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第13巻 「認知症の理解」（中央法規出版）			
参考書：授業中にプリント配布、資料等			
視聴覚教材：パワーポイント・ＤＶＤ			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：認知症のある人が住み慣れた地域で暮らし続けていくための支援方法について深く理解し、その視点を持ち続けることを望む。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士、介護支援専門員			

科 目 名	障害の理解Ⅰ (障害の基礎的理解)	講　師　名	渡部　美奈子
授業形態	講義	履修時間数	１６時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	障害の概念、障害者の生活像、障害の基本理念、障害者福祉施策、障害者の法とサービスについて基礎的知識を身につける。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	障害の概念		
3・4	障害者の基本理念		
5・6	障害者福祉に関連する制度①		
7・8	障害者福祉に関連する制度②		
9・10	知的障害のある人の生活		
11・12	精神障害のある人の生活		
13・14	発達障害のある人の生活		
15・16	総括		

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第 14 巻「障害の理解」（中央法規出版）
参考書：　適宜、資料を配布し、参考文献の紹介をする
視聴覚教材：　ビデオ・ＤＶＤ
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・受講態度等による総合評価
学生に望むこと：障害の概念を理解し、介護福祉士として障害のある人とどのように向き合うか学んでほしい。
担当教員の資格・経歴等：看護師、病院勤務 12 年、教員 10 年以上

科 目 名	障害の理解Ⅱ （医学的知識）	講　師　名	渡部美奈子・畠山宏士
授業形態	講義	履修時間数	３０時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	障害のある人の心理や身体機能に関する医学的知識を身につけるとともに、障害のある人の体験を理解する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	障害のある人の心理		
3・4	肢体不自由（運動機能障害）の基礎的理解と特性に応じた支援		
5・6	視覚障害の基礎的理解と特性に応じた支援		
7・8	聴覚・言語障害の基礎的理解と特性に応じた支援		
9・10	重症心身障害の基礎的理解と特性に応じた支援		
11・12	高次脳機能障害の基礎的理解と特性に応じた支援		
13・14	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人の生活の理解		
15・16	難病の基礎的理解と特性に応じた支援		
17・18	心臓機能障害のある人の生活の理解		
19・20	呼吸機能障害のある人の生活の理解		
21・22	腎機能障害のある人の生活の理解		
23・24	膀胱・直腸障害		
25・26	小腸機能障害のある人の生活の理解		
27・28	肝臓機能障害のある人の生活の理解		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第 14 巻 「障害の理解」（中央法規出版）			
参考書：適宜、授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・ＤＶＤ			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・受講態度等による総合評価			
学生に望むこと：自分がわかりやすいようにノートをまとめる。暗記ではなく、理解するように学習をすすめてほしい。			
担当教員の資格・経歴等： 渡部：看護師、病院勤務 12 年、教員 10 年以上、　畠山：看護師、介護施設勤務 15 年以上			

科 目 名	障害の理解Ⅲ （地域における支援）	講　師　名	澤田　麻矢
授業形態	講義	履修時間数	１６時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	地域の生活者である 障がいのある方（当事者）および 家族を支援するための基礎的知識を学習する。 介護職が（現場にて）これから出会うであろう問題を知る。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	地域のサポート体制／障害福祉サービスの提供のしくみ		
3・4	相談支援事業、基幹相談支援センターとの連携		
5・6	協議会・地域生活支援拠点との連携		
7・8	チームアプローチ		
9・10	家族への支援		
11・12	家族の介護力の評価と介護負担の軽減		
13・14	連携会議（ロールプレイ、グループワーク）		
15・16	総括		
使用テキスト： 最新・介護福祉士養成講座第 14 巻「障害の理解」（中央法規出版）			
参考書： 適宜プリント配布			
視聴覚教材： ＰＰＴ			
成績評価方法： 出席状況、筆記試験、受講態度等による総合評価			
学生に望むこと： 障がいを持つ人、その家族を取り巻く問題を知り、具体的にどのような地域福祉を利用する事が出来るのかを知ってもらいたい。			
担当教員の資格・経歴等：介護福祉士（障害者入所施設 5 年、通所 14 年）			

科 目 名	こころのしくみ	講　師　名	渡部　美奈子
授業形態	講義	履修時間数	３０時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	基礎的なこころのしくみについて学び理解する。生活体である自分、援助者である自分を見つめ、対人援助職としてあるべき自分の構え方を考える。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	健康の定義・健康観		
3・4	心と脳のしくみ		
5・6	意識と無意識		
7・8	人間の欲求とは		
9・10	自己実現と尊厳		
11・12	知覚・理解・認識		
13・14	学習・記憶のしくみ		
15・16	感情・情動のしくみ		
17・18	意欲・動機づけのしくみ		
19・20	適応のしくみ		
21・22	価値観について		
23・24	気分と身体		
25・26	パーソナリティ		
27・28	ＤＶＤ鑑賞		
29・30	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第 11 巻「こころとからだのしくみ」（中央法規出版）			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介をおこなう			
視聴覚教材：ビデオ・ＤＶＤ			
成績評価方法：レポート・科目試験の結果を総合して評価する。			
学生に望むこと：こころのしくみを理解し、生活援助者としての在り方を思索する			
担当教員の資格・経歴等：看護師、病院勤務 12 年、教員 10 年以上			

科 目 名	からだのしくみ （生命論）	講　師　名	丸田　和夫
授業形態	講義	履修時間数	３０時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	身体の生理・身体の機能・身体構造・身体の動きについて理解し、介護サービスの提供における安全への留意点や身体的・心理的側面への配慮について学習する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	からだのしくみ①　生命論		
3・4	からだのしくみ②　からだのみかた（解剖学的・生理学的理解）		
5・6	からだのしくみ③　からだのみかた（病気の理解）		
7・8	からだのしくみ④　障害のみかた		
9・10	うごきのしくみ①　脳神経系のみかた		
11・12	うごきのしくみ②　神経・筋肉系のみかた		
13・14	うごきのしくみ③　骨関節系のみかた		
15・16	うごきのしくみ④　呼吸循環器系のみかた		
17・18	心身機能の低下とＡＤＬへの影響		
19・20	リハビリテーションの理念		
21・22	リハビリテーション医療の基礎知識		
23・24	脳神経系疾患のリハビリテーション		
25・26	神経筋肉系疾患のリハビリテーション		
27・28	高齢者のリハビリテーション		
29・30	リハビリテーションにおける尊厳性		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第 11 巻「こころとからだのしくみ」（中央法規出版）			
参考書：新・介護福祉士養成講座第 3 巻「介護の基本Ⅰ」（中央法規出版・他）			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・ＤＶＤ			
成績評価方法：提出物・学習態度・出席状況等による総合評価			
学生に望むこと：身体の生理・機能・構造・動きについて基本的知識を身につける。			
担当教員の資格・経歴等：理学療法士、実務経験 47 年 8 カ月			

科目名	からだのしくみ （生活論）	講師名	畠山　宏士
授業形態	講義	履修時間数	４０時間
授業期間	通年	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	生活支援技術で求められる知識や援助の意義を深め、それらのサービスの提供における安全への配慮や身体的・心理的側面への配慮について理解する。		

回数	授業内容	回数	授業内容
1・2	心身の調和・快適な環境	21・22	ボディメカニクス 体位変換とその生理
3・4	身じたくに関連したこころとからだの基礎知識とそのしくみ	23・24	褥瘡
5・6	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響・変化の気づきと対応	25・26	バイタルサインの理解①
7・8	移動に関連したこころとからだの基礎知識とそのしくみ	27・28	バイタルサインの理解②
9・10	心身の機能低下が移動に及ぼす影響・変化の気づきと対応	29・30	食事と生活
11・12	食事に関連したこころとからだの基礎知識とそのしくみ	31・32	排泄と生活
13・14	入浴・清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識とそのしくみ	33・34	清潔保持・身じたくを整える①
15・16	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響・変化の気づきと対応	35・36	清潔保持・身じたくを整える②
17・18	排泄に関連したこころとからだの基礎知識とそのしくみ	37・38	からだの不思議
19・20	総括	39・40	総括

使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第 11 巻「こころとからだのしくみ」（中央法規出版）

参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う

視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・ＤＶＤ

成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・学習態度等による総合評価

学生に望むこと：生活支援技術や実習・就職後に求められる援助の意義を確認し、こころとからだのしくみの基礎的知識を身に付けてほしい。難しい単元なので資料をきちんと保管し予習・復習をしっかりとして欲しい。

担当教員の資格・経歴等：畠山：看護師、介護施設勤務 15 年以上

科 目 名	からだのしくみ （生活論）	講　師　名	宮谷　和良
授業形態	講義	履修時間数	２０時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	「睡眠」と「死」の二つに焦点をあてて授業を展開する。介護現場で求められる知識を深め、援助の意義を理解する。サービスの提供場面における安全への配慮や身体的・心理的側面への配慮等についても学習する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	休息・睡眠のしくみ		
3・4	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響		
5・6	睡眠における気づきのポイント、医療職との連携		
7・8	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方		
9・10	「死」に対するこころの理解		
11・12	演習		
13・14	終末期から危篤状態、死後のからだの理解		
15・16	演習、ケーススタディ		
17・18	終末期における医療職との連携		
19・20	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座 第11巻「こころとからだのしくみ」（中央法規出版）			
参考書：適宜プリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント、ビデオ			
成績評価方法：筆記試験、小テスト、グループワーク態度等による総合評価			
学生に望むこと：「睡眠」と「死」に関する基礎的知識および必要な生活援助方法を身につける。自らの死生観をみつめ、よりよい生き方を模索する。			
担当教員の資格・経歴等：社会福祉士、臨床倫理認定士、人間学修士			

科 目 名	医療的ケアⅠ （基礎・講義）	講　師　名	渡部　美奈子
授業形態	講義	履修時間数	１２時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　１学年
授業の目的	介護福祉士による医療的ケア実施（喀痰吸引や経管栄養）の社会的背景を知り、医療的ケアが合法化されたことに対する認識を明らかにする。医療的ケア実施にあたり、安全な療養生活を提供するための基本的な知識や観察の視点を養う。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	介護福祉士と医療的ケア　喀痰吸引等制度　医行為とは		
3・4	医療の倫理について　個人の尊厳と自立		
5・6	保険医療制度とチーム医療		
7・8	ふりかえり		
9・10	安全な療養生活		
11・12	清潔保持と感染予防		
13・14	健康状態の把握		
15・16	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座第 15 巻「医療的ケア」（中央法規出版）			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・ＤＶＤ			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・学習態度等による総合評価			
学生に望むこと：ノート・プリントを整理し学習内容をまとめ、見やすくしておくこと			
担当教員の資格・経歴等：看護師、病院勤務 12 年、教員 10 年以上			

科 目 名	医療的ケアⅡ （分野別知識と実施手順）	講　師　名	畠山　宏士
授業形態	講義	履修時間数	２１時間
授業期間	前期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	医療的ケア（喀痰吸引や経管栄養）の実施にあたり、必要な知識を習得し、実施前、実施中、実施後の観察及び評価を行う力を養う。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	呼吸器の構造とその働き		
3・4	痰を生じて排泄するしくみ（喀痰吸引とは）		
5・6	呼吸器系の病気について		
7・8	喀痰吸引について　人工呼吸器療法とその吸引		
9・10	呼吸器系の感染		
11・12	利用者と家族の気持ちにそった対応①		
13・14	小テスト①		
15・16	消化器のしくみ		
17・18	嚥下・咀嚼について		
19・20	消化器系の症状		
21・22	経管栄養に必要な知識と援助		
23・24	小テスト②		
25・26	利用者と家族の気持ちにそった対応②		
27・28	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座　第 15 巻「医療的ケア」（中央法規出版）			
参考書：授業中にプリント配布、参考文献の紹介を行う			
視聴覚教材：パワーポイント・ビデオ・ＤＶＤ			
成績評価方法：筆記試験・出席状況・提出物・学習態度等による総合評価			
学生に望むこと：ノート・プリントを整理し学習内容をまとめ、見やすくしておくこと			
担当教員の資格・経歴等：看護師、介護施設勤務 15 年以上、医療的ケア教員資格			

科 目 名	医療的ケアⅡ （分野別知識と実施手順）	講　師　名	油野祥子・畠山宏士
授業形態	講義	履修時間数	１８時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	医療的ケアは「身を委ねられる」ことでもあり、医療の倫理、関係法規、実施により生じる危険、急変・事故発生時の対応と事前対策を学ぶ。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	医療的ケアを行うにあたっての倫理、医療行為に関係する法律		
3・4	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施		
5・6	喀痰吸引による生じる危険、事後の安全確認		
7・8	喀痰吸引による急変・事故発生時の対応と事前対策、		
9・10	（口腔・鼻腔・気管カニューレ）の手順説明・デモンストレーション		
11・12	喀痰吸引の事例の振返り、報告・記録		
13・14	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認		
15・16	経管栄養による急変・事故発生時の対応と事前対策		
17・18	経管栄養（胃ろう・経鼻経管）の手順説明・デモンストレーション		
19・20	経管栄養の事例の振返り、報告・記録		
21・22	試験		
23・24	総括		
使用テキスト：最新・介護福祉士養成講座 第15巻「医療的ケア」（中央法規出版）			
参考書：事前に各手順書・資料を配布　※必ず熟読しておくこと			
視聴覚教材：パワーポイント、医療的ケアでの必要物品			
成績評価方法：筆記試験＋授業態度			
学生に望むこと：手順書等の資料は必ず持参すること			
担当教員の資格・経歴等：油野：看護師資格、医療的ケア教員資格 畠山：看護師、介護施設勤務15年以上、医療的ケア教員資格			

科 目 名	医療的ケアⅢ（演習）	講　師　名	油野　祥子
授業形態	演習	履修時間数	１５時間
授業期間	後期	対象学科学年	介護福祉学科　　２学年
授業の目的	医療的ケアの技術を習得し、安全に実施できる。また過去の講義を振り返り、その根拠を確認する。		
回　数	授　　業　　内　　容		
1・2	手順解説　①口腔・鼻腔内喀痰吸引気　②管カニューレ内部喀痰吸引		
3・4	手順解説　③胃ろうからの経管栄養　　④経鼻経管栄養		
5・6	喀痰吸引・手順解説の振返り（口腔・鼻腔内吸引）		
7・8	喀痰吸引・手順解説の振返り（気管カニューレ内部吸引）		
9・10	経管栄養・手順解説の振返り（胃ろうからの経管栄養）		
11・12	経管栄養・手順解説の振返り（経鼻経管栄養）		
13・14	評価①　口腔・鼻腔内吸引（実技試験）		
15・16	評価②　気管カニューレ内部喀痰吸引（実技試験）		
17・18	評価③　胃ろうからの経管栄養（実技試験）		
19・20	評価④　経鼻経管栄養（実技試験）		

使用テキスト：新・介護福祉士養成講座 第15巻「医療的ケア」（中央法規出版）

参考書：事前に各手順書・資料を配布　※必ず熟読しておくこと

視聴覚教材：なし　※実習室での環境設定を行うこと

成績評価方法：実技

学生に望むこと：、自己学習すること、また手順書等の資料は必ず持参すること

担当教員の資格・経歴等：看護師資格、医療的ケア教員資格